

# 4年1組 国語科学習指導案

場 所 4年1組教室  
授業者 小木曾 真子

## 1 単元・教材名 読んで考えたことを話し合おう 「ごんぎつね」

### 2 指導の立場

#### (1) 教材観

本単元では、「ごんになったつもりで兵十に手紙を書き、交流する」という活動に向けて、登場人物の行動や気持ちの変化、情景などを叙述をもとに読み取る力を身につけることをねらいとする。

本教材は、いたずら好きのひとりぼっちの小ぎつね「ごん」が軽い気持ちでしてしまったいたずらがきっかけで「兵十」のおっかあが死んでしまったと思い、いたずらをしたことを後悔し、「兵十」への償いを重ねていくお話である。「ごん」のいたずらしてしまった気持ちやうなぎの償いをしようとする気持ち、自分の償いを神様のしわざと思われて引き合わないと思う気持ち、くりや松たけを持って行ったのは自分だと気づいてほしいと思う気持ちが「ごん」の会話や行動描写、心情描写を通して書かれているため、「ごん」の気持ちや行動の変化をとらえやすい作品である。

#### (2) 児童の実態

「白いぼうし」では、松井さんの人柄を叙述をもとに読み取ることを学習した。その際、松井さんの会話や行動描写、心情描写に着目して、松井さんの優しい人柄を想像することができた。「一つの花」では、「ゆみ子」の生きている時代の様子や「ゆみ子」に対する父母の気持ち、十年後の時代の様子の変化を叙述をもとに読み取ることを学習した。その際、時代の様子を表す言葉に着目したり、父母の会話や行動描写、心情描写に着目したりして読み取るとともに、前の場面とつなげて読みを深めたり、変化をとらえたりすることができた。しかし、松井さん以外の会話や行動描写に線を引いて松井さんの人柄を読み取ってしまったり、「ゆみ子」の会話や行動描写に線を引いて「ゆみ子」の父母の気持ちを読み取ってしまったりする児童が2～3割ほど見られ、読み取りの手掛かりとなる言葉を的確に見つけられない児童もいた。

また、発言に対して消極的な児童が多く、自分と似たような意見が出てしまうと挙手をやめてしまったり、違う意見があるのに発表しようとしなかったりする児童もいる。

#### (3) 指導観

##### 【研究内容1】に関わって

第三次の言語活動として「ごんになったつもりで兵十に手紙を書き、交流する」ことを位置付け、言語意識を次のように設定する。

相手意識・・・学級の仲間に

目的意識・・・自分一人では気づかなかったことを交流を通して教えられ物語の読みを深めたり広げたりするために

場面・状況意識・・・手紙の交流会で

方法意識・・・「ごん」の気持ちになりきって、「兵十」に対する「ごん」の気持ちや行動の変化がわかるように手紙や「兵十」の気持ちになりきって、天国の「ごん」から届いた手紙への返事を書いて交流する

評価意識・・・「ごん」の「兵十」への気持ちや行動の変化や償いをしてきていた「ごん」に対する「兵十」の気持ちがわかるように手紙を書いている

「ごん」や「兵十」になったつもりで手紙を書き、交流するという言語活動を設定することで、「ごん」の会話や行動に着目して読んだり、償いをしてきていたのが「ごん」だったとわかったときの「兵十」の会話や行動に着目して読んだりするとともに、「ごん」の気持ちや行動の変化、「兵十」の気持ちに気づくことができると考える。

また、手紙を書くという活動にすることで、より「ごん」の気持ちに寄り添って読み深めることができるはずである。

【研究内容2】に関わって

一人読みの段階においては、教科書に線を引いて、読み取ったことをノートに書くよう指導する。線を引くことができない児童には、「ごん」の会話，行動描写，心情描写に着目できるように声をかける。「ごん」の会話，行動描写，心情描写以外に線を引いてしまう児童には，誰の言葉・行動なのかを整理することで課題に対して的確に線が引けるように支援する。線を引くことはできても気持ちを読み取ることができない児童には，教師と役割演技や部分音読をするなどして「ごん」の気持ちが想像できるように支援する。また，着目するキーワードとなる言葉を文章から語句へと短い言葉に着目できるようにしていきたい。そのために，文章のどの言葉から読み取ったのかを問い返したい。

まとめの段階においては，学習のまとめとして，毎時間読み取った「ごん」の気持ちや気持ちの変化を「ごん」になりきって「兵十」に宛てた手紙として書きまとめていく。第三次の手紙を書くときには毎時間書きためたまとめの手紙をもとに一場面からの「ごん」の気持ちの変化を手紙に書き表せるようにする。

【研究内容3】に関わって

交流前段において，本文の前の方の叙述から発表すること，「～～ということを読み取りました。わけは， ページに・・・と書いてあるからです。」という話形で発表することを指導する。そうすることで，児童の思考の流れを途切れ途切れにならないようにしたい。また，板書に掲示するキーワードとなる言葉を精選し，見やすい板書になるように努めることで児童の思考の混乱を避けたい。

交流後段においては，深めの発問『「ごん，おまいだったのか，いつも，くりをくれたのは。」の言葉から，兵十のどんな気持ちがわかるだろうか。』を投げかけ，「ごん」のことをぬすつとぎつねだと思っていた「兵十」は毎日くりや松たけを持って来てくれていたのは「ごん」だったと気づき，「ごん」は自分がくりや松たけを持って来ていたこと，うなぎの償いをしてきたこと，自分はもうぬすつとぎつねではないことを「兵十」がわかってくれたと思い，誤解が解けてホッとする気持ちに気づかせたい。

3 単元の目標

場面の移り変わりに注意しながら，登場人物の正確や気持ちの変化，情景などについて，叙述をもとに想像して読むことができる。 【読(1)ウ】

文章を読んで，考えたことを発表し合い，互いの考えの共通点と相違点を考えながら話し合うとともに，一人一人の感じ方の違いに気づくことができる。 【読(1)オ】

4 単元指導計画（全12時間計画）

過程	時	主な学習活動（課題・着目する語句・深めの発問）	単元を貫く課題/言語活動	評価規準【観点】
一次	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元名とリード文を読み，単元の見通しをもつ。</li> <li>初読の感想を書き 単元をつらぬく課題を作ろう。</li> </ul>	登場人物の気持ちや行動の変化を読み取り、考えたことを話し合おう。 ごんになつたつもりで兵十に手紙を書いたりして交流する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>初読の感想をもっている。</li> <li>単元を貫く課題をもっている。 【関・意・態】</li> </ul>
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習計画を立てる。</li> <li>学習計画を立てよう。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>学習の見通しをもち，学習計画を立てている。 【関・意・態】</li> </ul>
二次	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>一場面のごんの性格や兵十への思いを読み取る。</li> <li>1 ごんの性格や兵十への思いを読み取る。</li> <li>着目：ひとりぼっち 小ぎつね いたずらばかり 見つからないように，そうっと ちょいと，いたずら びっくりして飛び上がり 一生けんめいににげ</li> <li>深め：ごんは兵十のことをどう思っているのだろうか。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>一場面について，叙述をもとにごんの構ってほしくていたずらばかりしてしまう性格や兵十のことは単なるいたずら相手としか思っていないことを読み取っている。 【読(1)ウ】</li> </ul>
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>二場面のごんの兵十への思いの変化を読み取る。</li> <li>2 ごんの兵十への思いの変化を読み取る。</li> <li>着目：死んだのは，兵十のおっかあだ あんないたずら しなけりゃよかった</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>二場面について，一場面のごんと比較し，自分のいたずらのせいで兵十のおっかあが死んでしまったことで，いたずらを後悔するごんの兵十への思いの変化を読み取っている。 【読(1)ウ】</li> </ul>

三次	8 (本時)	深め：一場面のごんと二場面のごんは、何が変化しただろうか。 ・三場面のごんの兵十への思いの変化や行動の変化を読み取る。 3 ごんの兵十への思いや行動の変化を読み取ろう。 着目：おれと同じ いわしを投げこんで うなぎのつぐないに まず一つ、いいことをした くりをどっさり拾って かかえて兵十のうちへ これはしまった 次の日も、その次の日も くりばかりでなく、松たけも二、三本 深め：ごんはどんな思いで毎日毎日くりを持っていったのだろうか。	登場人物の気持ちや行動の変化を読み取り、考えたことを話し合おう。	ごんになったつもりで兵十に手紙を書いたり、兵十になったつもりでごんに手紙を書いたりして交流する。	・三場面について、ちょっとしたいたずらのせいで兵十のおっかあが死んでしまったと思い後悔するごんが、兵十への償いを始めるごんの気持ちの変化を読み取っている。【読(1)ウ】
		・五場面のごんの兵十への思いの変化を読み取る。 5 ごんの兵十への思いの変化を読み取ろう。 着目：二人の話を聞こうと こいつはつまらないな。 引き合わないなあ。 深め：ごんは自分だと気づいてほしいのだろうか。			・自分のしてきた償いが神様の仕業と思われて引き合わないと感じているごんの気持ちを読み取っている。【読(1)ウ】
		・六場面のごんの思いの変化を読み取る。 6 ごんの兵十への思いを読み取ろう。 着目：くりを持って、兵十のうちへ こっそり中へ ばたりとたおれ ぐったりと目をつぶったまま、うなずき 深め：ごん、おまいだったのか、いつも、くりをくれたのは。の言葉から兵十のどんな気持ちがわかるだろうか。			・兵十が自分の償いに気づいてくれて誤解が解けてホッとするごんの思いを読み取っている。【読(1)ウ】
		・天国のごんから兵十に手紙を書く。 天国のごんから兵十に手紙を書こう。			・手紙を書くときに、一場面から六場面を通して、ごんの性格や気持ちの変化を読み取ったことを生かしている。【読(1)ウ】
	・書いた手紙を交流し、互いの感じ方や考え方の同じところや違うところに気づき、話し合う。 手紙を交流して考えたことを話し合おう。	・書いた手紙を交流することで互いの感じ方や考え方の同じところや違うところに気づいている。【読(1)オ】			
	・天国のごんから届いた手紙を読んだ兵十から、ごんへ返事を書く。 ごんからの手紙を読んだ兵十から返事を書こう。	・手紙を書くときに、ごんの償う行動への驚きやごんを撃ってしまったことへの後悔の読み取りを生かしている。【読(1)ウ】			
	・書いた手紙を交流し、互いの感じ方や考え方の同じところや違うところに気づき、話し合う。 手紙を交流して考えたことを話し合おう。	・書いた手紙を交流することで互いの感じ方や考え方の同じところや違うところに気づいている。【読(1)オ】			

5 本時のねらい

ごんの兵十への思いを考えることを通して、兵十がごんの償いを認めてくれたことに気づき、兵十の誤解がとけてホッとするごんの思いを読み取ることができる。 【読(1)ウ】

6 本時の展開(8/12)

\*人権教育の観点

	学習活動	指導・支援 見届けの視点
導入	<p>1 前時までの学習を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一場面では、軽い気持ちでいたずらをしてしまって、二場面では兵十のおっかが死んでしまったことを知っていたずらをしたことを後悔して、三場面ではうなぎの償いに毎日くりや松たけを持って行って、五場面では神様のしわざと思われて引き合わないなあと思っていた。</li> </ul> <p>2 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">6 ごんの兵十への思いを読み取ろう。</div>	<p>前時までの流れを想起し、本時の課題を確認する。                  掲示や自分のノートのとめを見て振り返っている児童を価値付ける。                  会話文、行動描写、心情描写に着目して読み取ることを確認する。</p> <p>*言葉を手がかりにごんの気持ちを豊かに想像する力を育てる。(自己啓発力)                  前の場面とつなげて考えている児童を価値付ける。                  線を引くことはできても気持ちを読み取ることができない児童には、教師と役割演技や部分音読をして、気持ちを想像できるように支援する。ごんの会話や行動、心情以外に線を引いてしまう児童には、会話や行動の主語を確認し、的確に線を引くことができるように支援する。</p>
個人追究 / 交流前段	<p>3 一人読みをして、全体交流をする。</p> <p>「くりを持って、兵十のうちへ出かけました」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日も償いをしよう。</li> <li>・「こっそり中へ入りました」</li> <li>・神様の仕業ではなく、おれなんだよ。</li> <li>・気づいて。</li> <li>・「ばたりとたおれました」</li> <li>・何が起きたんだろう。</li> <li>・せっかく栗を持って来たのに。</li> <li>・「ぐったりと目をつぶったまま、うなずきました」</li> <li>・やっと気づいてくれた。</li> <li>・うれしい。</li> </ul> <p>4 深めの発問を提示して読みを深める。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto;">「ごん、おまいだったのか、いつも、くりをくれたのは。」の言葉から兵十のどんな気持ちがわかるだろうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごんはぬすつとぎつねではなかったのか。ごめんね。</li> <li>・まさかくりを持って来てくれていたのがごんだったなんて思わなかった。びっくりした。</li> </ul>	<p>ごんから兵十へ視点を変えることで、ただ償いに気づいてくれてうれしいだけでなく、今までの償いを認めてもらえたことや自分はもうぬすつとぎつねではないことをわかってもらえて、うれしく思い安心するごんの気持ちの変化に気づかせる。                  定着状況の見届け                  手紙を書くときに、一場面からのごんの気持ちの変化の読み取りを生かしているか。</p>
交流後段	<p>5 ごんがうなずいたときの気持ちを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・兵十は自分の償いにやっと気づいてくれた。</li> <li>・自分はもうぬすつとぎつねではないとわかってくれてうれしい。</li> </ul> <p>6 本時の学習をまとめる。</p> <p>ごんの兵十への思いを手紙に書く。</p>	<p>【評価規準】                  兵十が自分の償いに気づいてくれて誤解が解けてホッとするごんの思いを読み取っている。 【読(1)ウ】</p>
まとめる	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>兵十へ                      毎日くりや松たけを持って行っていたのは神様じゃなくて、おれだったんだよ。うなぎのつぐないをしていたんだ。兵十もおれと同じひとりぼっちになってしまっかわいそうだと思ったから。今まで続けてきたつぐないにやっと気づいてもらえてうれしかったよ。</p> </div>	